

### 3章 水循環解析の流れ

一般的な水循環解析の流れを図3に示す。大まかな流れとしては、まず、水循環解析の諸元（水循環解析の対象エリア、解析期間、解析ケース）を設定する。次に、水循環解析モデルを選定・構築し、再現解析によりパラメータのチューニングを行う。その後、先に設定した解析ケースについて計算を実施し、結果をもとに、水収支や地下水位等高線、地下水の流線軌跡図・流線ベクトル図等を作成するほか、水循環健全化施策の効果検討などを行う。

#### <解説>

一般的に想定される水循環解析の流れは、図3に示すとおりである。

「水循環解析の諸元の設定」では、まず、水循環解析の対象エリアと解析期間を設定する。次に、水循環解析の目的に応じた解析ケースを設定する。

「水循環解析モデルの構築」では、収集した資料に基づき水循環解析モデルの選定と水循環解析モデルの構築を行う。再現解析では、パラメータのチューニングを行って水循環解析モデルの再現性を確認し、設定した解析ケースについて水循環解析を実施する。

「水循環解析結果の整理・活用」では、水収支や地下水位等高線、地下水の流線軌跡図・流線ベクトル図等を作成する。「水循環解析による施策評価」では、対象エリアにおける水循環健全化施策の効果検討などを行う。

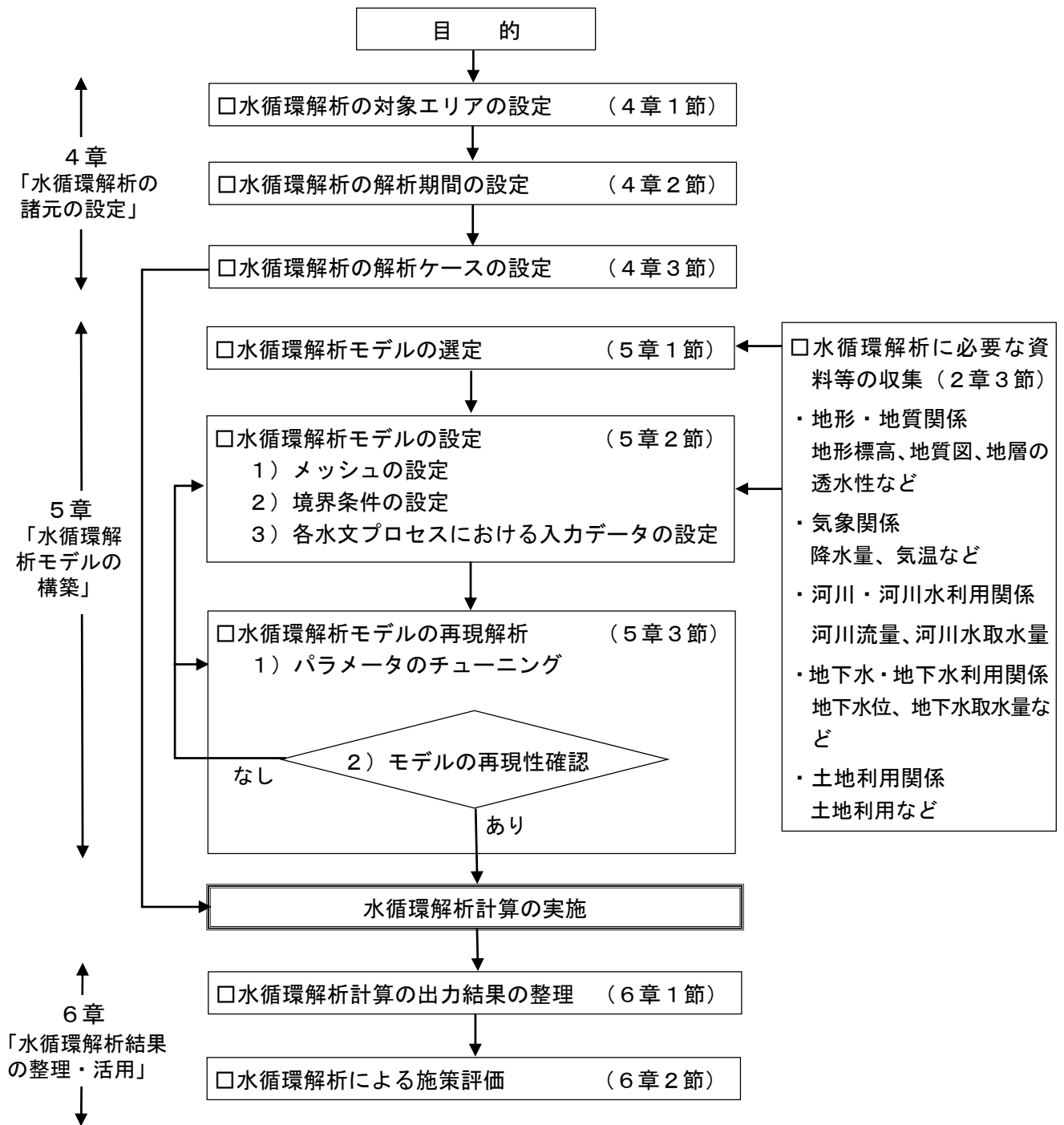


図3 水循環解析の流れ